

カシリビマブ／イムデビマブの使用症例報告

兵庫県立尼崎総合医療センター 薬剤部

○青井 直樹（あおい なおき）

太田 あづさ（おおた あづさ）、河原 香織（かわはら かおり）

佐倉 小百合（さくら さゆり）、辻本 純子（つじもと じゅんこ）

○目的

カシリビマブ／イムデビマブは重症化リスク因子をもつ COVID-19 患者に対して 2021 年 7 月から入院患者限定で特例承認された。国内で使用報告はなく、当院の入院使用症例の経過を後方的調査したので報告する。

○方法

調査期間：2021 年 8 月 18 日～8 月 31 日

対象：入院投与患者 3 例

投与方法：カシリビマブ／イムデビマブを各 600mg/5mL を抜き取り生食 100mL に希釈し、20 分かけて投与。投与後 1 時間はモニターを装着し観察。

症例 1 58 歳男性、重症化リスク因子：年齢・肥満（BMI43）・心血管疾患あり、発熱（入院時 38.2 度）・咳嗽・味覚障害あり（発症 2 日目入院、発症 4 日目投与）。

症例 2 55 歳男性、重症化リスク因子：年齢・糖尿病（HbA1c 8.4）、咽頭痛・咳嗽あり、発熱なし（入院時体温 36 度台）（発症 3 日目入院、同日投与）。

症例 3 38 歳女性（妊婦）、重症化リスク因子：肥満（BMI38）、発熱（入院時 39 度台）・咳嗽（発症 3 日目入院、発症 6 日目投与）

○結果

症例 1 投与翌日まで発熱（38 度台）が継続していたが、投与 2 日目には解熱し、投与 7 日目に咳嗽改善し退院。

症例 2 投与 3 時間後から発熱（38 度台）があり、投与 2 日目には解熱し、投与 7 日目に退院。

症例 3 投与翌日まで発熱（39 度台）が継続していたが、投与 2 日目には解熱し、投与 5 日目に退院。

使用した 3 例に infusion reaction の発現はなかった。

○考察

カシリビマブ／イムデビマブ投与後に発熱の出現または発熱の継続がみられており、投与後の副反応に発熱が見られる可能性がある。投与 2 日目以降は解熱しており、重症化を予防し、早期に症状を改善する効果があると考えられる。

○結論

カシリビマブ／イムデビマブは COVID-19 重症化リスク因子に該当する患者では早期に効果を発現する。今後も症例の蓄積が必要である。